

【ポスター発表】

障害者ソーシャルワーク教育が障害学から学ぶもの
—欧米における議論に見る対話の可能性と今後の方向性について—

○ 関西学院大学 松岡 克尚 (1808)

宮崎 康支 (関西学院大学客員研究員・9599)、原 順子 (元四天王寺大学・1134)

キーワード：ソーシャルワーク教育・障害学・対話

1. 研究目的

障害学は「障害」の社会的構築性を指摘しつつ、身体・精神的な差異（インペアメント）を有する者を排除する様々な社会的な障壁を問題視して、それらの除去、解消を図ろうとする。その究極的な目標は、障害者を「できなくさせている社会 Disabling Society」を改めることであって、そこでは障害者を下位に置き、あるいはその存在を無視、軽視する政治・経済・社会構造が問われている。一方で（障害者）ソーシャルワークは、インペアメントのある者とその環境との相互作用を軸にして、両者の調和を保つことに重点を置いてきた。日本社会福祉学会と障害学会の会員層が一定重複している日本の現状に鑑みると、先の「間隙」を前にして両者の「対話」の可能性を探る意義はあるのではないか。この点について、両者の議論において先行してきた欧米の現況から学ぶ必要があると思われる。

そこで本研究は、特に障害者ソーシャルワーク教育（以下、SW 教育）と障害学との関連についての欧米の先行研究の成果を踏まえつつ、これからの SW 教育の方向性を試論的に検討することを目的とする。

なお、この報告は JSPS 科研費（22K01998）から助成を受けたものである。

2. 研究の視点および方法

先行研究レビューを行い、論者の主張をまとめた。具体的には、Google Scholar において"social work" AND "disability studies"の検索式にて文献検索を行った。そこで検出された論文の中から、特に SW 教育に関するものを精読した。

3. 倫理的配慮

本報告は理論研究であり、「日本社会福祉学会研究倫理規程に基づくガイドライン」の特に「引用」の内容を順守し、自説と他説を峻別した。そして、報告内容については全発表者間で合意を得た。COI は存在しない。

4. 研究結果

既存システムの維持に前提的なソーシャルワークの「開発能力の低さ」という点がかねてから自己批判の対象になっていた。例えば、D.Dustin (2007=2023:101) はシステムの問題を認識、特定できても、それを修正することは不可能に近いと述べ、あるいは佐伯 賢 (2024) はソーシャルワークが、既存システムが有する権力性や差別構造を看過してきたことを指摘している。あるいは、M.Acosta-Jiménez (2022) は、新自由主義的文脈において

は、ソーシャルワーカーは変革の担い手というよりも技術者であると看破する。

こうしたソーシャルワークの「保守性」は当然、その養成教育にも影響を及ぼすことになる。全米ソーシャルワーカー協会（NASW）の「文化的コンピテンス」では、障害を多様性の一部として包摂し、「文化的謙虚さ」が強調されている（NASW 2015）。一方で、ソーシャルワークにおける障害に関する支配的な言説は個人／医学モデルに基づいており、障害の「問題」を個人の欠陥に帰着させているという批判は根強い（Hiranandani 2005）。

また、M.Burghardtら（2021）は、ソーシャルワーカーは（1）障害者の日常生活の現実への適用性欠如、（2）障害者が生きる複雑な政治的・社会的現実に対して限定的な説明しかできない、（3）障害者を「正常化」しようとする継続的な試みといった限定的な医学的障害観、（4）「善意 ‘good intentions’」の陰に隠れた、障害者と専門職の間に存在するグローバルノース的な植民地主義、両者の権力のアンバランスへの無知により、障害者が作り出した戦略や計画へのアクセスをむしろ妨げている、という状況を生んでいると批判し、それらを「不穏さ a sense of “disquiet”」と呼んでいる（p.26）。そしてこの「不穏さ」解消のためには、障害学とのつながりを構築することが必要と訴える。

5. 考察

ソーシャルワークと障害学は対立的に位置付けられることが多いが、I.Carterら（2010）は両者の価値観と倫理観の間に高い互換性（社会変革指向、エンパワメント重視、多様性尊重と抑圧撤廃の目標等）があることを指摘している。この土壌の上で両者の協働は可能であるという見解が多い。養成教育に関して言えば、障害者の参画が強調されている。それを踏まえたSW教育プログラムの開発を具体的に進め、さらにインクルーシブ教育、多文化共生教育、なかんずく外国語教育での実践も加味する必要性が欠かせないと考える。

【文献】

- Acosta-Jiménez, M. A. (2022). Social work practices towards people with disabilities in *Portugal: A reflectiveness proposal for conscious interventions and social work training*. *Social Work Education*, 41(5), 943-961.
- Burghardt, M., Edelist, T., Schormans, A. F., & Yoshida, K. (2021). Coming to critical disability studies: Critical reflections on disability in health and social work professions. *Canadian Journal of Disability Studies*, 10(1), 23-53.
- Carter, I., Quaglia, C., & Leslie, D. (2010). 21. Enriching social work through interdisciplinary disability studies. *Collected essays on learning and teaching*, 3, 124-130.
- Dustin, D. (2007). *The McDonaldization of Social Work*, Routledge. (=2023, 小坂啓史・坪洋一・堀田裕子訳) 『マクドナルド化するソーシャルワーク ―英国ケアマネジメントの実践と社会理論』明石書店.
- Hiranandani, V. (2005). Towards a critical theory of disability in social work. *Critical Social Work*, 6(1), 1-15.
- NASW (2015). *Standards and Indicators for Cultural Competence in Social Work Practice*.
- 佐伯 賢 (2023) 「障害者差別解消法をめぐる障害当事者団体の見解はなにか」日本社会福祉学会第72回大会、日本福祉大学東海キャンパス、2024年10月27日。